

2020年9月22日

長野県出身のプロ野球選手列伝（追）

田村栄治（1組、野球部OB）

ようやく、丸山清光さん（70期、明大野球部出身）の新刊『なんとかせい！島岡御大の置き手紙』を読み終えました。島岡御大を拝見したのは、1972年3月の神宮球場で、車椅子を押されて教え子の鈴木一比古（伊那北高から明大）と三協精機の光沢毅監督（飯田長姫高から明大）の応援に来ていた時でした。鈴木は我々と同期で、伊那北時代、当時の長野県優勝校、吉江喜一投手（1948～2018）を擁する塚原学園（現松本国際高校）に準々決勝で敗退しましたが、かなり評価されていた選手でした。

塚原学園は1966年夏の甲子園1回戦で松山商に延長11回サヨナラ負けしました。吉江は1966年ドラフト会議でサンケイアトムズ（別所毅彦監督）から2位指名を受け入団しています。

島岡御大の話は、球友会（上田高校野球部OB会）で山崎紀典先輩（57期、明大野球部出身）から面白く聞かされていたので、この本のお陰でいろいろなことが甦りました。なお、上原昇君（2組）投稿の長野県出身プロ野球選手のHP記事も読みました。

その中で、小諸市（小諸商業高校）出身の南海ホークスの堀込基明外野手（1939～1997）は載っていませんでした。堀込は専修大へ進み、大学時代、1961年春季リーグには首位打者、ベストナイン4回の記録を残しています。

1962年、南海に入団し1年目から1軍に起用、左翼手・中堅手としてレギュラー定着、1965年にはベストナイン受賞。1970年引退まで通算安打数543本と、それなりに活躍しています。列伝に追加させていただきます。

以上

【写真：堀込基明選手】

